

良元ええとこ

「聖心(みこころ)の丘」小林聖心女子学院 訪問記

小林駅からわずか数分で緑あふれる別世界がある。広い敷地の大きく育ったたくさんの木々の間に、真っ白な校舎が点在する、小林聖心女子学院だ。普段は入ることが出来ない学院に、広報部のメンバーが取材のため訪問した。同学院の教諭の方に、学院の歴史や学院の様子などのお話を聞き、その後、校舎内を見学させていただいた。



<正門前>

緑に包まれた通学路は、爽やかな風と静かな空間

学院への道は、阪急今津線のガードをくぐり坂道を登ると、「みこころ坂」の石柱があり、さらに緑のトンネルの坂道が続く。正門の坂を上ると目の前に現れる本館は、1926年にアメリカの建築家アントニン・レーモンドの設計した鉄筋コンクリート造り3階建てで、1999年国の登録有形文化財に指定された。



<阪急電車のガード>



<木漏れ日のみこころ坂>



<緑の木々に包まれた道>

本館前の広場を左手に進むと、三角の鐘塔のある新館が目に入ってくる。竹腰健造の設計で、2階には、天井の高い聖堂がある。聖堂内は、正面のステンドグラスと左右の窓からの光が明るくて、荘厳な祈りの場の雰囲気を感じる。聖堂の入り口横の小部屋に、鐘楼の鐘をつく装置があった。

<三角の鐘塔と聖堂>

地域に住む者にとっても心安らぐ「アンジェラスの鐘」の音はここで鳴らされている

いつも聞いているあの鐘の音



<聖堂>



<取材の様子>



<聖堂での様子>